令和6年度第3回地域密着型サービス事業運営推進会議（合同会議）議事録

１　開催日時　　令和5年9月27日（金）　13時30分～15時00分

２　開催場所　　特別養護老人ホームほうじゅの郷　会議室

３　出席者

　　　　　　〇運営推進委員

　　　　　　　　　川村和生（地域住民代表）

　　　　　　　　　川村　明（地域民生委員）

　　　　　　　　　三熊　　（市民サービス課）

　　　　　　　　　瀬川清美（石鳥谷地域包括支援センター職員）

　　　　　　　　　宮森寿人（はなみずき石鳥谷家族の代表）

　　　　　　〇事務局（施設職員）

　　　　　　　　　小原秀幸（施設長）

　　　　　　　　　中村勇子（ほうじゅの郷管理者兼主任生活相談員）

　　　　　　　　　岩谷大明（ほうじゅの郷生活指導員兼フロアリーダー）

　　　　　　　　　菊池理恵子（はなみずき石鳥谷主任生活相談員兼計画作成担当者兼介護職員）

　　　　　　　　　小野寺邦枝（はなみずき石鳥谷主任介護職員）

４　欠席者　　　袴田浩一（ほうじゅの郷家族の代表）

５　協議内容

1. 各事業の進捗状況等について
2. 身体的拘束に関する事項について（身体的適正化委員会）
3. 事故等に関する事項について
4. その他　情報交換等

６　会議の経過

　　　　　13時30分、小原施設長は運営推進会議の本日出席予定者の全員が出席していることを確認し、開会を宣言する。

小原秀幸　　本日はお忙しい中ご出席をいただき誠に有難うございます。

　　　　　　　今回も事業の進捗状況や身体拘束、事故等の状況をご報告申し上げながら、委員の皆様からご意見等を頂戴したいと思っておりますので、どうぞ宜しくお願いいたします。

　　　　　　　続いて、一部職員の異動等があり、はなみずき石鳥谷の計画作成担当者が菊池になりましたのでお知らせいたします。その他に変わりはございません。

　菊池理恵子　9月1日付けで異動となりました菊池と申します。宜しくお願いいたします。

　小原秀幸　　それでは次第に沿って進めて参ります。

　　　　　　　はじめに各事業の進捗状況等について、ほうじゅの郷から説明をお願いします。

　中村勇子　　資料に基づいて詳細に説明をする。

　小原秀幸　　次にはなみずき石鳥谷の進捗状況等について説明をお願いいたします。

　小野寺邦枝　資料に基づき、日常の生活等について説明をする。

　菊池理恵子　グループホーム内における研修事業について、資料に基づき詳細に説明をする。

　小原秀幸　　ただ今、それぞれの施設の進捗状況等について説明がありましたが、委員の方からご発言をいただきたいと思います。

　川村和生　　特養から介護ロボットについてのお話がありましたが、具体的にどのようなロボットなのか教えていただきたいです。

　中村勇子　　特養では、移乗用のリフトの活用を検討しお願いをしております。入居者の身体状況は様々で、介護職員もそれぞれの状態に合わせた介護するわけですが、体力的な部分や介護にかかる時間等の問題があるために、出来れば介護ロボットを活用することにより、効率的かつ安全な介護サービスの提供ができることに期待を寄せています。

　小原秀幸　　介護ロボットの導入に関しては国も推奨していて、介護人材不足の解消の意味も含め、補助金を適用させて支援を行っているところです。今般、当会もほうじゅの郷のほか、デイサービスやショートステイ、特定施設としても介護ロボット導入のための補助金申請を岩手県に対し書類を提出しているところです。

　　　　　　　その他、何かございませんか。

　瀬川清美　　医療的ケアに関する部分で、相当の方々がいらっしゃるなあと思っておりますが、看取りに関してはどのようになっておりますか。

　中村勇子　　令和２年に立ち上げてから、嘱託医契約の病院とは話題にしながらも実際には体制は出来ておりません。

　　　　　　　ただ最近になって医師も変わったこともあり、看取りの必要性とか要望が多いという認識もあるようで、今後前向きに検討がされてくるものと思われます。

　　　　　　　これまでも、入居者やその家族が施設での看取りを希望されたことも多くありましたが、応えることが出来ず心を痛めてきました。早期に病院との協議が上手くいくことを望んでおります。

　小原秀幸　　担当医師の考え方次第というところがあると感じています。

　　　　　　　最近になって嘱託医がかわったことあり、私の方からも医師に率直に相談をさせていただきました。内容については理解を示していただきましたので、病院としての体制とかルール作りが出来てくれば可能だという考えで確認したところです。具体的には病院の事務長サイドと詳細な協議を始めることになります。

　瀬川清美　　家庭でも看取りのケースが多くなってきておりますから、ほうじゅの郷が家庭の延長とする施設であるならば、是非実現していただきたいですね。本人はもとより医師と家族が共通認識のもとで終末期を本人が望むような形でおくることできる環境を整えていただきたいものです。

　小原秀幸　　仰る通りですね。それに向けて努力いたします。

　　　　　　　その他ございませんか。

　　　　　　　因みに介護ロボットの件で申しますと、令和３年度の事業で特養に「眠りスキャン」というものを補助金を利用して導入しております。睡眠の状態を可視化して、睡眠の状態やバイタル、離床の有無などが常に把握できるもので、病気や状態変化を予測したり、原因のヒントなどに活用されています。また転倒などの事故防止に繋がるケースもあり、これからも機器の性能をもっと活かして介護や支援業務に役立てるようにしていきたいと思っております。

　宮森寿人　　はなみずき石鳥谷もほうじゅの郷もユニットなのでお聞きしますが、仏壇は持ち込んでも宜しいものですか。

　中村勇子　　いいですよ。仏壇でもお位牌でも遺影でも、なんでも結構です。入居されている方の生活が豊かになるのであれば、ほとんどの場合、何でも持ち込んで結構です。

　川村　明　　勤務形態が１９パターンもあるんですね。大変ですね。

　　　　　　　それから特養の食卓の「大皿盛り」というのはどういうことですか。

　中村勇子　　家庭の雰囲気づくりのひとつなんですが、一人ひとりの食事の量も違いますし、自分で配膳や盛り付けができる方にはやっていただきたいと思いもあって、これまで病院のように配膳車にのせて一律に配っていた食事の提供の仕方を見直したものです。茶わんや食器についても、家庭で使用していたものをそのまま使って頂いて、あえて割れやすくて重い瀬戸物の茶わん等を使って頂くことで、家庭的で自分の居場所であることの意識を持っていただくための「こだわり」でもあります。

　瀬川清美　　非常に斬新で面白い発想でよいと思います。いろいろ大変なこともあるだろうなと思いながら聞いております。給食に限らず、ユニット内でおかずやおやつなども作りながら楽しくされている環境は入居者さんにとっても喜ばしいところだと思う一方で、栄養の偏りとか体重の増加も考えられますから、健康管理の部分もあると思いますので、その辺は注意をしながらやっていただければなあと思いました。

　小原秀幸　　ご助言有難うございます。仰る通りだと思います。栄養面や体重増加に関しては主に管理栄養士が担当しております。個々のデータを掌握して看護分野や介護職と情報を共有して、必要な対応にあたっています。ただ、私としては施設である以上、本人のための必要な管理や制限はあると思いますが、再三申し上げている通り、「家庭・家族」の環境を追求しているところもありますし、残りの余生を豊かに過ごしていただきたいと思えば、出来るだけ本人が望まない制限はしたくないなあと思っています。食べたいもの、飲みたいもの、好きに飲み食いしていいよって。もちろん家族の意向や医者の方針等があるのはわかりますがね、私が言ってはいけない事だろうと思いますが、自分だったらどうだろうか？といつも考えさせられます。

　川村　明　　食品ロスはどうですか。

　中村勇子　　食品ロスは、それほど多くは無いと思います。入居者様によって小食、大食の違いもありますので、その辺はユニットの垣根を越えて、多少のやり取りをしながら、出来るだけ食品ロスにならいようにしています。

　小原秀幸　　その他何かございませんか。

　　　　　　　特に無いようですので次の話題に移ります。

　　　　　　　身体拘束等について、まずははなみずき石鳥谷から説明願います。

　小野寺邦枝　身体拘束等の事例案件はございません。

　小原秀幸　　検討されるようなケースも特に無いという事で宜しいですか。

　小野寺邦枝　はい。

　小原秀幸　　次に、ほうじゅの郷から説明をお願いします。

　中村勇子　　資料に基づき詳細に説明をする。

「弄便のケース」

　小原秀幸　　法人としては身体拘束を行わないという方針ではありますが、只今の説明のとおり特養においてやむを得ない状況により指針の決まりに沿って身体拘束を行っているいう事例でございます。

　　　　　　　委員の皆様からのご質問ご意見等をいただきたいと思います。

　宮森寿人　　抑制着を着用しているようですが、背中のファスナーをどのようにして外すのでしょうね。

　中村勇子　　それが謎なんです。ファスナーが壊れているんですね。引っ張るとか切るとかじゃないんです。常に弄っているような様子はありますが、嫌がっている様子でもなくて。職員も困惑しながら、それでもよく状況を観察しながら取り組んでおります。

　小原秀幸　　その他、何かございませんか。

　　　　　　　特になければ、次の話題に入ります。

　　　　　　　事故等に関する事項について、ほうじゅの郷から説明をお願いします。

　中村勇子　　資料に基づいて詳細に説明をする。

　小原秀幸　　次のはなみずき石鳥谷から説明をお願いします。

　菊池理恵子　資料に基づき、詳細に説明をする。

　小原秀幸　　只今、それぞれから事故等について説明をさせていただきました。委員の皆様からのご発言をお願いいたします。

　　　　　　　事故の中で、花巻市へ報告したものはありますか。

　中村勇子　　ほうじゅの郷から１件報告しております。

　小原秀幸　　月１回起床時の服用とは、どんな薬ですか。

　小野寺邦枝　骨粗鬆症の薬です。

　瀬川清美　　薬のセットは誰がしているのですか。看護婦さんですか。

　小野寺邦枝　介護職員で行っております。

　瀬川清美　　割に少ないですね。

　　　　　　　私も施設で働いていましたが、薬に関する事故は相当多いものですよね。

　小原秀幸　　過去には相当ありました。運営推進会議にその都度報告させていただきまして、委員の方々から、厳しいお言葉、ご指導ご助言いただきました。

　　　　　　　私等もこれを改善するために手法を替え工夫を加え試行錯誤してきており今日に至ります。また薬剤師さんを講師に呼んで研修会も開催して意識を高めたり助言等をいただいたりもしてきました。それでも事故の皆無には至りません。難しいものです。

　瀬川清美　　薬にも様々あって、砕くと効果が薄れるものがあったり、一緒に飲めないものもあったりと、毎日飲む薬ですが厄介なものですね、お疲れ様です。

　小原秀幸　　その他何かございませんか。

　　　　　　　とにかく事故の件数を出来るだけ減少するようつとめて参りますので、今後ともご助言等をいただければと思います。

　　　　　　　特になければ、その他情報交換等に移ります。

　　　　　　　今回、特養から話題があるようですのでご発言をお願いいたします。

　中村勇子　　話題提供です。ひとつは、来る10月26日土曜日、地域・家族交流会が開催されます。近隣住民の方々には回覧でお知らせしておりますが、入居者の家族との交流のみならず、地域住民の皆様にも参加していただき、入居者様とのふれあいを通じて施設の理解を深めていただく機会になっていただければと思っておりますので、お時間のある方はお越しいただければ幸いでございます。

　　　　　　　二つ目は、障害者の雇用に関することですが、当会でも2名ほどの障害の認定を受けいる職員がおり共に働いております。事業所における障害者雇用は一部義務化にもなっておりますので、地域との関わりの中で、このようはことも話題として知っていただければと思っております。

　　　　　　　三つ目に、地域共存とは？としておりますが、私たちの施設は正に地域の住宅街の中にあるということもあって、地域との関わりについて、もっと何かやれるのではないかと考えています。認知症の方が彷徨い歩き最後には遺体で発見されたり、高齢者虐待や親子同士の虐待も多くなっていて、私自身も親子虐待を実際に目の当たりしたこともあります。地域の関係がますます希薄になっている中で社会福祉法人として何ができるのかを考えていきたいと思っています。

　小原秀幸　　地域との関わりをテーマとしたときの私たちが考えている内容ですね。

　宮森寿人　　北上の方の事例ですけど、子ども食堂とか聞いたことがあると思いますが、そのところでは、子ども食堂を防災食堂に名称を変更して、何かの際には炊き出しもできるようにしているとのことです。そこには子供だけではなく高齢者も同じように利用することがあり、共存共有することで、交流が出来たりすることもメリットになっているようです。ここには補助金が無くて、近くの農家さんとか有志の方々で行っているようですね。

　小原秀幸　　なるほど、地域活動もいろいろな形であるのですね。

　　　　　　　行政的にはどうですかね。

　三　熊　　　福祉の担当になって間もないので、いろいろ勉強させていただいております。

　　　　　　　市の方でも福祉タクシーとかバスとかもありますが、高齢とか障害があると一人では乗れない場合もあり利用できないケースも多くあるようですね。民生委員さんが手伝っているようなところもあるようですが、なかなか難しい課題も多いいなと感じています。

　小原秀幸　　なるほど、そうですね。民生委員さんも幅広く手伝っていただく場面が多いようで大変ですね。

　川村　明　　私が担当する地区では、それほど面倒な方は今のところおりません。お互いに助け合いながらおられるようなところもあるようです。

　小原秀幸　　地域のコミュニティが確立していることだと思いますし、民生委員さんはじめ、地域の組織がうまく連携しているように感じます。

　　　　　　　包括さんからの話題はございませんか。

　瀬川清美　　福祉センター内に割と大きな厨房がありますが、現在は活用されおりません。昔は社協が主催となって婦人会や団体さんの協力を得ながら配食サービスが行われた時代があってその時に設備されたものなのです。今では活用されることがなくて、もったいないなあと思っているところです。何方かに使ってもらえばいいのですがね。

　小原秀幸　それはもったいないですね～。ちょっと考えてみましょうか。

　　　　　　最後に区長からご発言をいただきたいと思います。

　川村和生　　地域・家族の交流会があるということで、私たち地域住民も楽しみにしております。上口地区からも出店する予定があるということで、施設と地域ぐるみで活動できることは非常に喜ばしいことだと思っております。

　小原秀幸　　有難うございます。

　　　　　　　この運営会議の開催からでも感じるとおり、私たち施設としても地域の方々と活動できることは非常に意義あることだと認識しておりますし、続けて参りたいと思っております。今後とも引き続きご指導ご鞭撻のほど宜しくお願いいたします。

　小原秀幸　　その他に何もなければ、以上をもちまして第3回地域密着型サービス事業運営推進会議を終了いたします。本日は誠に有難うございました。

閉会　　15時00分

議事録作成者

社会福祉法人宝寿会事務局

特別養護老人ホームほうじゅの郷

施設長　小　原　秀　幸　　　　㊞